

2009(平成21)年度事業計画の概要

大学全入時代を迎え、高等教育機関をとりまく競争環境は一層激しさを増している。また、社会構造の変化や価値観の多様化が進む中、高等教育機関が果たすべき役割は高度化している。このような環境の中、学校法人龍谷大学は、「龍谷大学」「龍谷大学短期大学部」が展開する「教育」「研究」「社会貢献」活動を通して、社会の要請に応える人材の養成に努めるとともに、学術文化の振興や科学技術の進展に寄与していかなければならない。

これらの使命を達成するために諸活動を積み重ねてきた本法人にとって、2009年度は、創立370周年を迎える年であると同時に、2000年度から開始した第4次長期計画の最終年度となる、大きな節目の年である。

1年を通じて様々な「創立370周年記念事業」を実施し、あわせてこれらの事業を契機として本法人のさらなる発展につなげていくこととする。また「第4次長期計画」については、各事業の完遂を目指して推進するとともに、本法人の総力を結集して2010年度から始まる「ポスト第4次長期計画」を策定する。他の主要な取り組みとしては、2011年4月に開設予定の「龍谷ミュージアム」の準備活動を進めるほか、新たな研究科として高度専門的な素養を備えた実践的な宗教者を養成する「実践真宗学研究科」を開設し、また理工学研究科においては博士後期課程「情報メディア学専攻」「環境ソリューション工学専攻」を開設して6専攻体制を確立する。

また、従来に引き続き、「教育環境」「学生支援活動」についても、さらなる充実を図る。

教員を目指す学生が増加していることに伴い「教職センター」を開設して支援体制を強化するほか、引き続き低年次からのキャリア教育を徹底し、各種企業等へのインターンシップを推奨するなどのキャリア開発支援についても充実させる。また、開設4年目を迎えるRUBeC（米国カリフォルニア州バークレー）を活用した留学プログラム「BIE Program」や、拡充を図っている海外の諸大学との交換

留学プログラムなどをとおして、留学生の派遣・受け入れを積極的に進める。

施設環境については、京都御所の西に、ゼミナールや課外活動などの研修・短期合宿施設としても使用できる「セミナーハウスともいき荘」と、留学生寮「International Houseともいき」をオープンする。また、ユビキタス教育環境整備事業の一環として、情報教育システムのリプレイスや普通教室・ゼミ教室のマルチメディア教育環境を充実させるとともに、瀬田学舎には中・大規模教室（収容人数600名1室、300名2室、200名3室）を配備した新棟を建設する。

また、学生生活支援の一環として、経済状況の急速な悪化に鑑み、家計の急変に対応する本学独自の奨学金制度を充実させ、学生の学びのサポートを行っていく。

研究に関する主な取り組みとしては、5件の文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業と1件の文部科学省私立大学戦略的研究基盤支援事業に引き続き取り組み、新規プロジェクトとして「新技術開発による文化財保存・修復科学研究」及び「里山の現代的利用に関する総合研究」を文部科学省私立大学戦略的研究基盤支援事業に申請する。本学が独自に実施する高度化推進事業「アフガニスタン新発見仏教遺跡学術調査」については、事業最終年度の総括を行いながら、その成果を広く社会に発信していく。

その他には、2008年度に付属化した龍谷大学付属平安中学校・平安高等学校との高大接続教育のさらなる充実を図るとともに、龍谷総合学園のネットワークを活用して実施される高大連携プロジェクト「龍谷アドバンスト・プロジェクト」にも積極的に協力し、高大連携を強化する。

これらの事業は、いずれも本法人が370年の歴史の中で培ってきた資源・ネットワークを有効に活用したものであり、「龍谷大学」「龍谷大学短期大学部」の設置理念の具現化とブランド力の向上に資するものであると認識し積極的に推進する。

